

最も重大な政治、民意の問題

これまで、沖縄では、数々の世論調査、県民大会、国政・地方選挙などを通して、辺野古の基地建設に反対する意志を示してきました。2019年2月には、辺野古の基地建設の是非を問う県民投票が行われ、「辺野古基地建設NO」の民意が示されました。しかし、辺野古の計画は見直されることなく、工事は強行されています。一方で、沖縄の基地負担の軽減策などで、沖縄以外の地域の名前があがるたび、地元は猛反発します。そして、それを受けた政府は、その話を撤回します。沖縄とそれ以外の地域への政府の対応の差はあからさまですが、これを政府の問題だけで片付けることはできません。日本の世論調査を見ると、米軍基地を置く根拠となっている日米安保条約(体制)を支持する人は8割を超えています。しかし、これまで、日本全体で「普天間基地をどこに移設すべきなのか」「米軍基地の負担をどのように全国で担っていくのか」という議論はほとんどなされていません。

なぜ、基地を引き取るのか 自分の問題として一緒に考えてほしい

日米安保条約(体制)を支持しながら、根拠がない理由を盾にして根強い反対がある沖縄に基地を押しつけておくのは、差別であると言わざるを得ないのではないのでしょうか。私たちは、沖縄を差別して基地を押しつけて生きていくのが嫌です。その生き

方を変えるために、押しつけたものを自分たちの手元に戻した上で、日米安保を解消するのか、継続するのか、他の選択肢も含めて、「主体的に」話し合い、行動していくことが何より大切だと思っています。沖縄の人々は、今この瞬間も米軍基地の危険性にさらされ続けています。そして、辺野古では体をはった阻止行動が続けられています。

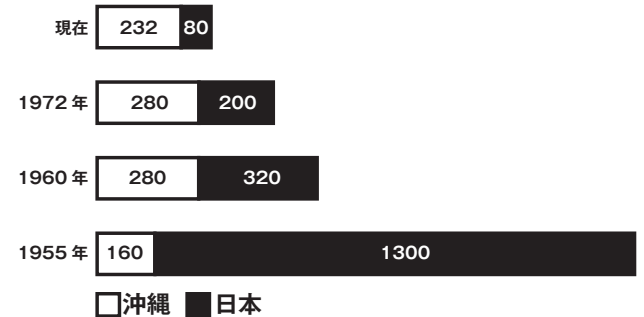
沖縄の米軍基地を大阪に引き取る——それは、米軍基地の被害や戦争の痛み鈍感になること、ましてや肯定することでは決してありません。それらに敏感であり続けるからこそ、自らが沖縄に強いている痛みを解消することが求められていると思います。悩んでいる人も、反対の人も、まずはこの議論に多くの人に参加して下さることを心から願っています。

●参考文献・参考記事：

- ・「沖縄の米軍基地を『本土』で引き取る!」編集委員会編 (2019)『沖縄の米軍基地を「本土」で引き取る! —市民からの提案』コモンズ。
- ・高橋哲哉(2015)『沖縄の米軍基地—「県外移設」を考える』集英社新書。
- ・知念ウシ(2013)『シランフナー(知らんぷり)の暴力』未来社。
- ・野村浩也(2019)『増補改訂版 無意識の植民地主義—日本人の米軍基地と沖縄人』松籟社。

- ・金城馨(2019)『沖縄人として日本人を生きる—基地引き取りで暴力を断つ』解放出版社。
- ・新しい提案実行委員会編 責任者 安里長従(2018)『沖縄発新しい提案 辺野古新基地を止める民主主義の実践』ポーターインク。
- ・屋良朝博(2012)『誤解だらけの沖縄・米軍基地』旬報社。
- ・それってどうなの?沖縄の基地の話
<http://okidemaproject.blogspot.jp/>

在日米軍基地(専用施設)面積の整理縮小の変遷



米軍基地が建設された1955年から起算すると—沖縄以外の日本では、米軍基地(専用施設)の割合は1972年時点で85%の整理縮小がなされたのに対し、沖縄の米軍基地(専用施設)の割合は1972年時点で175%と逆に拡大された。原因は、1955年前後における日本から撤退した米軍基地が、沖縄に移設・移駐したことによる。沖縄の辺野古、金武、宜野座、国頭にある米軍基地は、日本に駐留していた岐阜キャンプ、富士キャンプの米海兵隊が移設されたものである。

沖縄差別を解消するために沖縄の米軍基地を大阪に引き取る行動(引き取る行動・大阪)
【連絡先】 info@tbbo.koudo.info 【HP】 <http://koudo.info/hikitori/i.html>